

第35回(通算2696回)例会記録 2016年(平成28年)4月6日(水)

- 🌸 司会進行/遠藤 正夫
- 🌸 ロータリーソング/君が代・四つのテスト
- 🌸 ゲスト/ 稲垣 純一氏(那覇南 RC)
- 🌸 メークアップ/前木繁孝・大濱達也・仁開一夫
前木繁孝・渡久地明・小林昌道(計6名)

出席報告

会員総数 41名 出席義務会員 40名
出席数 23名 欠席数 17名
出席率 57.50%(4月 通算出席率 57.50%)

本日のニコニコ

BOX ¥3,000(累計¥50,000)
コイン ¥2,921(累計¥96,782) **合計¥146,782**

- 😊 入会式後、例会初参加、みな様よろしくお願ひ致します。(小底 厚子)
- 😊 (稲垣 純一)

会長挨拶：新 賢次



皆さんこんにちは。先月20日の55周年の事業は本当に皆さんお疲れ様でした。参加者も200名近く、台湾や沖縄本島、県外からもたくさん来て頂いて、盛会に終える事ができました。本当にありがとうございました。ほっとしていますが、いろんな意味でロータリーを体感できたと思えました。クラブ奉仕だったり、職業奉仕だったり、外国からも沢山の方が見えたという事は国際奉仕にも通じて、諸々を含めたロータリー活動の包括的な活動が大きな事業として出来たんじゃないかと思っております。

本日はゲスト卓話として稲垣さんにおいで頂いています。いきさつは12月のIM大会でシンポジウムのコーディネーターをされていて、内容を拝聴して素晴らしいなと思ひまして、お願ひしたと

ころ快く引き受けて頂きました。チャンブルー文化と言うキーワードでIMのシンポジウムでしたので、石垣RCの文化と言うキーワードに結び付くと思ひましたので、お願ひしました。講師の稲垣先生の紹介を致します。学校法人KBC学園の理事長校長でいらっしゃいます。公的な立場としては沖縄県専修学校各種学校協会会長です。沖縄には1993年、40歳の時に来られて現在63歳でいらっしゃいます。石垣島には毎年のように来られているという事です。今日はよろしくお願ひ致します。

会員報告：木村 久美子

この場を借りてご紹介したいと思ひます。ゴールデンドラゴンという特殊な機械が入りました。ロシアの宇宙飛行士の健康管理の為に開発されて、さらに進化している、人間の全部の細胞、骨、筋肉、内臓、臓器、リンパ、血管、感情、ストレス、食べ物すべてをチェックできる機械です。頭にヘッドホンをつけるだけです。痛くもかゆくも音が出るとかも一切ないです。そこから音波が来ます。脳の中に松果体という非常に小さい部分があります。実はそこに人間の個人情報全てが詰まっているという事が、最近解明されまして、そこに特殊な音波を当てる事で、その人の身体の情報全部を拾う事ができます。リサーチするだけでなくセラピーをかけて同時に直していくという事もできます。放射能の被爆とかも一切ないです。安全に小さいお子様からお年寄りまで、簡単にお手軽に全身の身体細胞の不具合を見ることが出来ます。時間的には20分くらいでサーチングできます。どうい事が分かるかと言うと、チャクラとかインド系のアーユルベータの体質も分かります。自分の身体の臓器や器官にどれだけストレスが加わっているかも分かります。私は1回目に東京で体験をしましたが、心臓の血管に茶色いドットがいくつか付いていて、これをほっておくと将来心筋梗塞、狭心症、高血圧になりますよという病気の予知が出てきました。それに対して食事療法がありまして、1位からランキングで数値化して出てきます。ちなみに私は一番食べた方が良いと言う食べ物羊肉でした。あと鉱石療法がありますが、その人に合うクリスタル、そこでカーネリアンと出ていました。数値を見たらラム肉を食べるより、カーネリアンを身に付けてた方が自分の身体に利くとデータに出てきたんです。ちょうど羊の肉嫌いだし、カーネリアンのプレスレットをずっとつけていました。2回目東京に行って検査した時に

心臓の血管が大丈夫になっていました。インフルエンザの予防接種を受けなくても、人によってはインフルエンザのウィルスを弱める事も出来ます。それから気を付けたいアレルギー、ポリエステルとかナイロンとかいろんな服とかに使っている物、それが自分の身体に合うとか合わないとかが分かります。食事療法ですが、人によって何が一番いいかというのは違います。ちなみに榮子さんに一番いいのはバナナ、いちぢく、杏とかです。仁開さん泡盛でチェックしたら50数パーセントとかなり体には合っていました。あとはちみつ療法ですが、ロシアはちみつの種類が色々あって、どのはちみつが自分の身体に合っているのがランキングで出てきます。合性テストですと飲んでる薬とか漢方薬とか自分の身体とのマッチング、何パーセントかも分かります。皆さんには5月いっぱいキャンペーン価格でやっていますので、ご興味のある方は愛ランドクリニックまでよろしくお願ひ致します。

ゲスト卓話：稲垣 純一氏

学校法人 KBC 学園 校長



皆さんこんにちは。ご丁寧なご紹介ありがとうございます。那覇南RCにサミットの直後、2000年の秋から今日まで会員をしております。職業は専門学校でコンピューターとマーケティングを教えるという所がから入りまして、その後40歳で沖縄に来ましたが、45歳で校長になりまして、今日まで17年校長を続けております。今日の文化の話、間違いなくとりとめのない話で終わります。結論は出ません。ただ材料はたくさんご提供しますので、それを各自持ち帰り頂いてお料理はご自身の家でなさっていただきたいという事でございます。文化と私の表立った最初の関わりと言うのは、先ほどコンピューターとマーケティングが専門と申しましたが、東京の2番目に大きい広告会社、博報堂と言いますが、社員が3,000人いまして、3,000人もいる広告会社というのは、一人ひとりお得意先、担当する商品まで決まるんです。同じことを何年もやるので、得意先の社長さんより、技術者よりも詳しくなってしまうという事がありまして、しかし同じ業界で2つ

目は担当してはいけないという規則がございます。業界モラルとして出来ないんです。大変高度な企業秘密をお預かりするので、発売1年前の商品の仕様から、2年後に発売する技術の種まで知っていないと、ビジネスのお手伝いは出来ませんので、もし同じ業界で2つの会社に入社したら、大変な不祥事が起きかねないわけです。私はNECを担当していましたが、もう1つNTTを担当してくれと言われて、これはOKが出たんです。当時NECはコンピューター会社であって通信とは全く関係なかったんです。NTTは電話会社であってコンピューター会社ではなかった。別業界だからOKが出ました。しかしコンピューターは電話線に繋がなければ役に立たない時代がやってきました。また電話会社はコンピューターに繋がなければサービスが提供できない時代になって、両方がくっついてしまった。こうなると昔のマルチメディアという言葉が使われましたが、通信を知っている人間はコンピューターを知らない。コンピューターを知っている人間は通信を知らない。両方を知っている人間は少なくとも博報堂では私しかいなかったんです。ですから30そこそこでNTTとNECに関してはディレクターという40代後半のお仕事を、若造が引き受けさせて頂いて、その代わり忙しかったです。月曜に会社に行くとか何曜日に家に帰れるか分からない状態で、ほぼ1日おきに完全に徹夜という状態で、お金は貯まりました。けれど体が持ちません。

それで39歳の時に、40になったら1年休ませて下さいという事で、たまたま子供が小学校1年に上がる歳でしたので、私が行った小学校も東京でしたが、当時は自然もたくさんあって、近所付き合いも濃厚でした。ところが息子が上がる小学校というのはコンクリートで固められた学校でありますから、なんとか1年間だけは沖縄の自然と文化、歴史がしっかりある所で小学校に通わせたいと思って連れて参りました。連れて来たら今私がやっているKBC学園と云う、年に1,000人、沖縄大学の2倍の学生が入学してくる専門学校の理事長と知り合ひまして、少し手伝ってくれないかという事で、いや私は自分が休む事と大好きな沖縄の勉強がしたい、八重山のアジア芸能祭にも行きたい、良い方を捜して紹介しますからと言ひましたが、なかなか見つからないです。それは僕が自信をもって大好きな沖縄の若者たちに教えてほしいと、頼みたいような広告マンは東京で忙しくて、1回だけなら喜んで来ますが、毎週来てくれと言う訳にはいかないんです。半年住んでくれ

という訳にはいきません。俺行ってもいいよ、という人は、時間があるからでして、なんで時間があるかという、ちょっと力な足りないところがあるから、そういう人に来てもらっても、これからの未来ある若者に教える先生としては、私が紹介者として自身がありません。そこでいい人が見つかるまでピンチヒッターで私やりますと言って、半年か1年、長くて2年とと思っていましたが、今年で23年そのまま続けております。

当時博報堂でNECとNTT担当しておりましたが、ついでに担当していた事があります。日本デザイン会議と言うのがあります。1979年アメリカのアспенという都市で国際会議、文化会議がありました。その年のテーマが「JAPAN」だったんです。日本を代表するようなデザイナー、アーティスト、建築家、詩人、哲学者、100人が招待されまして、この人たちがアメリカで文化を扱うイベントは日本とはけた違いに深みがあって、内容があるという事でびっくりして帰って来ました。日本でも本格的な文化会議が出来ないかと言うことで、京都の哲学者、梅原猛さんを会長にしまして、実行委員長が亡くなりました建築家の黒川紀章さん、それ以外にもファッションでしたら森英恵さんと三宅一誠さん、とにかく全てのジャンルのNo1とNo2ぐらいしか入れない100人なんです。その事務局を私が担当していました。超一流の人達とお付き合いをすることが出来て、文化と言うのは今まで自分が知っていた文化とは全然違うんだと感じまして、それ以来文化という言葉に敏感になってしまいました。そもそも日本文化デザイン会議、意味する所は日本文化をデザインする。これまで日本の2000年の歴史、そこに蓄えられたたくさんの文化があります。それを踏まえながらも、それを良しとせず明日の文化を自分達100人でデザインする。デザイナーだけ集まっているわけじゃなく、哲学者、建築家、音楽家、舞台芸術家、役者、詩人もみんな集まっている。デザインと言うのは次の時代のイメージを創る、のイメージを形にする事なんだ。つまり全ての人間、全ての職業はこの意味で言えばデザイナーなんだという事に気が付きました。

去年の秋、元NTTの副支店長だった仲本榮章さんから電話がかかって来て、12月のIMのシンポジウムの司会をやって下さい。いいですよと、テーマは何ですかと聞いたら、文化だというんです。それを聞いて困りました。芸能と工芸の話を蒸し返して、東京から人たちに並べてもさんざん聞き飽きていやになります。しかし本当の意味での文

化と言ったら難しすぎて、上手く私がみんなの話を取りまとめられるか心配でした。当日は任せるからと言われましたので、パネラーの皆さんからは狭い意味での文化を語って頂いても結構ですよと、ただ私のまとめ方としてはこんなふうにまとめますよと、折衷案のような形でさせて頂きました。広い意味で言えばスポーツもスポーツ以外にも全部文化と言っていいじゃないですか。さらに大学へ行くと文化系、理科系とあります。元をただせば哲学の1ジャンルです。学位を取りますと英語でPHDと言います。PHというのはフィロソフィーのPHです。そういうわけでどちらも文化と言う意味では同じものを、その中で特に発達してきたものをジャンル分けして残った物に狭い意味での文化と言う言葉を使っている所があります。

そう考えますと、今日は政治の話はしないでくださいとか、安全保障の話は差しさわりがありますので、文化の話をしましょうというのも、同じ意味であまりに狭い所に文化という言葉を開じ込めているわけです。政治と言うのはまさに人間がより良い物を作り出そうとして作ったシステムであります。これこそ文化中の文化ではありませんか。そして安全保障、軍事に関してもどうしたら争いを防げるか、あるいは攻められたときに安全を確保できるか、子供たちの命を守れるかという所で、軍事安全保障が出てきているわけです。自衛隊は文化的であります。文化の華であります。というふうに私は広げて文化を考えてみたいと思う訳です。

もう1つ別の言葉で説明したい事があります。それは今の世界と言うのは20世紀前半と何が違うかと言ったら、誰が語っても同じ事を言います。情報化と国際化と言います。国際という言葉はOverseasが良く使われていた。文字通り海外です。国とは関係ありません。英語を使っている国、確かに海の外は外国ですから、外国と言う言葉とOverseasという言葉にくっ付けても何にも不都合はありません。海の外は知らない土地、知らない島という意味でOverseasという言葉が使われていた。それが戦後Internationalという言葉が流行し始めるわけです。Nationというのは国です。国と国との間がInterなんです。国というのを確固とした形で備えようと、同じように国の体裁を整えているよその国との関係を作りましょうという事です。Interというのは2つ以上のもの間を取り持つ真中の部分の事を言うわけです。従ってInternationalというのはあくまでも国ありき。国が主役である所の、その後のよその国との関係

なんです。それがこの10年Internaiionalという言葉が使われなくなってきた。Globalになっちゃたんです。海外とのお付き合いが最初の国の意識がなかった。それが急速に国の意識が出てきて、今また国の意識が薄らいでいる。今、国と言うことをやや後回しにして、人と人、組織と組織が直接つながってしまおうという、これをもたらししているのがもう1つの重要なキーワードである情報化です。情報化が進んでいるから国際化が進んだ。国際化が進んでいるから情報化が進んだという事になります。「国」と言うのは真中に王様がいて、それが四角に囲われているのが「国」と言う漢字です。何を囲っているのか、人と物と金と情報です。これを王様が囲うから「国」なんです。グローバル化というのは、情報化によって、王様が囲った垣根が低くなってしまった。そもそも王様の権力がなくなって、国民国家に代わってくるわけです。王様が自分の持ち物としての国から国民が主役である1つのまとまりになってくるわけです。では何をもって国民かと言うと、単純に言えば民族と言語です。民族と言語が共通ならばもめ事が起きにくい、だったらそれを1つの国にしたら、何かといいんじゃないかというのが国民国家です。逆に複数の言語、複数の民族が集まって、歴史の都合上国を作ってしまった所はなかなか上手くいきません。旧ソ連邦は大きなロシア共和国と14の共和国がソビエト連邦を作って、その技術から発展したさきほど素晴らしい医療技術の話を伺いましたが、残念ながらソビエト連邦は崩壊してしまった。ユーゴスラビアもバラバラになってしまった。チェコスロバキアもチェコとスロバキアに分かれてしまった。どうしても民族、言語、習慣が違うと国民国家としてのまとまりが付きにくくなるわけです。この国と言う概念がだんだん時代遅れになっていくのだろうか。国が無くても世界の平和の共存できるのだろうかというふうな考えが議論されるようになってくるわけです。

ここまでの材料でさらに私が皆さんに提供しなければいけないバラバラの話の次は、それじゃあ国としてまとまった中で、明らかに違う民族が集まった時には難しい面があるけれども、その中の小さな違いはどう考えたらいいのか。沖縄と中央政府が対立していると新聞では書かれていますけど、私にはそう見えません。日本、東京の政府はアメリカの言いなりになるのは嫌だと言うことを、アメリカに対して思っています。でも日本がアメリカの言いなりになるのは嫌だと思っているという事をアメリカではほとんど議論されません。同じ

ように沖縄は東京の勝手にされるのは嫌だと思っでいて、声をあげているわけです。ところが東京では、情報化時代ですから、ある程度話は聞かえてきますが、たくさんある日本国内の問題の1つであって、そう真剣には議論されていないというのが、私は実際の所ではないかと思えます。そして石垣は、那覇で決める事に振り回されるのは嫌だと思っでいませんか？那覇首里の自分勝手にはされたくないと思っているかもしれない。話は聞いてくれるけどなかなか八重山が主人公にしてもらえない。では八重山の中ではどうなのか。そもそも皆さんがアメリカに行ったら日本人と言われる。東京に行ったら沖縄人、那覇へ行ったら八重山の人、石垣の人と云われます。石垣では白保の人と云われます。これは対立関係じゃなく入れ子の関係になっているんです。ところが石垣が特に重要なのは尖閣の問題が起きたと言うことです。つまりすぐ横にある大きな国の勝手にされるのは嫌だと言う、入れ子の構造の一番真中の所が今や世界最大の発展国アジアの大変は覇権国の中国と直接に利害関係が結びついてしまっている。そうなる入れ子構造の全体の議論をしない限り、沖縄と東京の対立と言っでいても、それは全くこちらから見た時だけの主観的な話にならない。

さっき情報化と国際化と言いましたが、これは1つにまとめると新しい2つのものが出てきます。スーパーモダニズム、ポストモダニズム。スーパーモダニズムというのは、近代化の流れが今急激に、爆発的になっているという事です。江戸時代の末期から明治大正昭和と技術も進んできて、生活も良くなってきました。それが今情報化と国際化によって、爆発的になっている。じゃスーパーモダニズムに賛成、反対、2つの派に分かれます。もう自然が失われてしまう、このままいくと人間らしさが失われてしまう、反対だ。明治維新は納得しよう、近代化は必要だった。戦後の民主化も肯定しよう。だけどこれ以上の進歩は必要ないという反対派と、いや今社会の矛盾が出てきているじゃないか、貧富の格差、いろんな問題が出てきている。これをどうやって救ったらいいのか、政府だって無尽蔵にお金があるわけじゃない。これは情報化をもっと進めることによって解決するんだと、スーパーモダニズム賛成。反対派と賛成派に分かれます。

もう1つのポストモダニズムは、もう近代化が終った。次の理想社会は何かと言った時に、もっと人間らしさを求めて行こうじゃないか。過去にとらわれずに新しい未来を描こうじゃないか。こ

れに賛成する人もたくさんいます。昔の価値観は捨てる、新しい平等な民の為の社会を作るんだ。しかし実際やってみただけ理想主義であって、実際に理想が実現するかどうか分からない。証明できないところで突き進んで、いろんな問題も起きてしまった。つまりあるかどうか分からない未来を突き進んだ結果がポストモダニズムの賛成派の結果だと思えます。では反対派はどうか。いわゆる右翼と言われる人達。例えば三島由紀夫とか、この人たちは過去のイメージを大事にしましょう。古いものを壊したらいけない。ただ過去のものを壊したくないばかりに、新しいものになかなか挑戦しないんです。これがポストモダニズムに対する賛成派と反対派です。そうすると縦列組合せでスーパーモダニズムに賛成、反対。ポストモダニズムに賛成、反対という事で、組合せが4種類できるんです。だいたい皆さんのお話を聞いているとどれかに分類されます。この構造を基に議論がされないといけない。

最後に文化と地域経済の話ですが、これは同じように古い物を守ると新しい物を作ると言うことの2つに分けて、自分の為にすると言うことと人の為にすると言うこと。これも同じような4つの四角になります。古い物を守ると言う事と、新しい物を作ると言うこと。片方だけじゃ上手くいきません。古い物だけ守っていても衰退しますし、奇抜なものだけ作っても飽きられます。この2つはバランスを取らなきゃいけない。同時に自分の為にすると言うのはアートです。芸術です。人の為にするというのはマーケティング、ビジネスです。この4つのマス目がきちんと埋まっている地域は自律的に正のスパイラルで経済は発展していきます。このマス目が上手く埋められるように、プロジェクト化をしないとイケない。3つのプロジェクト。1つは官民が足りない所を補うプロジェクト。これはある程度やっていると思います。もう1つは官官プロジェクト。文化の担当、経済の担当、縦割りにしているのが横にプロジェクトで繋がるという事。最後は外から来た人と中の人のプロジェクト。これを利用して4つのマス目を埋めていく事が大事。

文化の話はきりがありませんが、私の考えに大変近い話を綺麗にまとめてくれたので、私は本を書かなくてすんじゃうなと言う本を見つけました。この本を読んだうえで私の意見も少し修正して、この本に合わせて今日お話ししました。興味のある方はお読みいただきたいと思います。とにかく文化と言うのはこれまで以上に重要であり、また地

域にとってこれまでの視点を越えた所で扱って行かないといけないというお話をさせて頂きました。ご清聴ありがとうございました。

例会風景



那覇からわざわざおいで頂きました。ありがとうございます。

国際ロータリー第2580地区

石垣ロータリークラブ週報

<今月のロータリーレート \$1=116円>

Weekly Report No. 2585

国際ロータリー・テーマ

2015-16年度
会長テーマ

「奉仕・天資と文化」



世界へのプレゼントになろう

K. R. ラビ・ラビンドラン

会長:新 賢次 副会長:前木 繁孝
直前会長:上原 秀政 幹事:宮良 薫
副幹事:前原 博一 SAA・出席:羽地 宏幸
情報・会報:名渡山 秋彦

創立記念日 1962年3月12日 (55周年)

2016年(平成28年)4月13日(水) 第36回 例会(通算2697回)



石垣市観光アドバイザー
谷口 正和氏の講演



永年会員表彰を行いました。



祝
五五周年

3月20日(日)

55周年記念式典にて

例会日 水曜日 12:30~13:30
例会場 ホテル日航八重山(0980)83-3311
事務局 〒907-0013 石垣市浜崎町 1-1-4

TEL/FAX (0980) 83-2917
URL <http://ishigaki-rotary.jimdo.com>
E-mail ishirota@ninus.ocn.ne.jp